

A. 主な動き

1. 内政

- ・6日、ドドン社会党党首及びツルカン「統一モルドバ」党党首は、両党の合併を発表。
- ・7日、ヴォローニン共産党党首は、同党はモルドバの関税同盟加盟に向け社会民主党との協力合意に達したものの、共産党は現時点で社会民主党との同盟結成は協議されていない旨発言。

2. 経済

▼IMF

- ・7日、ネグルツァ財務相は、ゲオルギエフIMF欧州局局长を団長としたIMF代表団が11月7～21日の期間、キシナウを訪問する、同代表団は、第6回目レビューとして、現在のIMFモルドバ支援プログラム下における最近の経済発展の評価、マクロ経済見通しの更新を行うとともに、モルドバ政府関係者と今後のマクロ経済政策についての議論、また新たな財政支援プログラムの交渉を行う旨発言。
- ・8日、ドラグタヌ中央銀行総裁は、IMFとの新たなプログラムを締結する必要がある、これはモルドバにとって重要であり、国際レベルでモルドバの信頼性を高めることになるだろう旨発言。

3. 外政

▼レアンカ副首相兼外務・欧州統合相のクロアチア・イタリア・スロバキア訪問

- ・6日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、クロアチアを訪問し、プシッチ外務・欧州問題相との会談において、両国関係の現状及び発展の展望に関し意見交換。プシッチ外相は、クロアチアは欧州の拡大を推進しているとし、モルドバの欧州統合路線の支持を表明。両者は、欧州統合分野における協力強化に関する両国政府間協定に署名。
- ・7日、レアンカ外相は、イタリアを訪問し、テルツィ外相との会談において、両国関係の現状を総括し、今後の発展に関し協議、両国の経済関係は発展の余地があるとし、両国経済界代表の会合を実施することで合意。双方は、モルドバ

の欧州統合及び沿ドニエストル紛争問題に関し協議し、テルツィ外相は、イタリアはモルドバの欧州統合及び沿ドニエストル問題におけるモルドバの立場を支持する旨発言。

- ・8日、レアンカ外相は、スロバキアを訪問し、ライチャーク副首相兼外相と会談。両者は、両国協力関係の現状及び深化に関し意見交換。ライチャーク外相は、スロバキアはモルドバ・EU連合協定交渉を支持するとし、双方は、欧州統合に関する両国間委員会及び貿易・経済協力に関する政府間委員会を設置することで合意。

▼その他

- ・7日、ティモフティ大統領は、オバマ米大統領の再選を祝福する声明を発表。

4. 沿ドニエストル

- ・5日、シェフチューク「大統領」は、ベンデル市内のアパートの違法購入のため逮捕され拘束中のモルドバの警察官に対して恩赦を与える「大統領令」に署名。6日、ブラーシュ駐モルドバOSCE大使は、沿ドニエストル当局の人道的対応を歓迎する旨発言。
- ・6日、シェフチューク「大統領」は、シュタンスキ「外相」を新たに「国際協力担当副首相」に任命する「大統領令」に署名。
- ・「5+2」者交渉の仲介役であるグバレフ沿ドニエストル問題担当露大使、ハルチェンコ沿ドニエストル問題担当ウクライナ特別代表、フォーレ・アイルランドOSCE議長国沿ドニエストル問題担当特別代表、オブザーバーである駐モルドバ米国及びEU大使は、6日、キシナウにおいてフィラト首相及びカルポフ国家再統合問題担当副首相と、7日、ティラスポリにおいてシェフチューク「大統領」及びシュタンスキ「外相」と会談し、11月末にダブリンで開催予定の次回「5+2」者公式交渉に向けた準備状況に関し協議。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。(了)